

標目 番号
第 31 番

供述調書

住 居金沢市泉ヶ丘二丁目一番三三号

職 業 保 険 外 交 員 電 話 局 番

氏 名 安 藤 紀 世

昭和二年二月十一日生（ 歳）

右の者は、平成四年四月一日金沢地方検察庁
において、本職に対し、任意次のとおり供述した。

一、
新付、安藤文の突り母の
文、新の夫安藤健次郎と
の間の長女として生まれ
た。

長女は独身で、結婚したこ

共 正 周 雪 二 寅 察 宇

刑罰
一字

様式第17号 (刑訴第223条, 第198条)
規程第9条

生 文 三 三

木

多

戸

はよく、ちろんこれより
姫姫ーに、うんうんとあり
もん。
病氣うーの病氣もーたうし
が、
なく、うーのうーの元氣
健康。ーの。
身を選ばしーの
た、心、うーのうーのうーの
く、怪我といえ、小学生のうー
に、転んで、うーのうーのうー
怪我うーの怪我うーのうー
あり、もん、うーのうーのうー

今度の牛の病
病氣や怪我など
に元気が
乏しくあり
た。

長女の身長は
一六一センチ
位
下
血液型は
A型
さき腕は
右で
眼鏡は
牛を
選
牛の
それ以外
は
牛の
牛の
牛の

加
一字
削

二.

—

長女は会社から夕方五時に
終わる。午後五時三十分
ころには帰宅して、夕
た。

残業もして、夕
したの。一つもその時
に帰って来ない。夕
た。

会社の行くの。女の子
達と金も。夕。夕。夕。
んとその旨家族に言う。夕。

村 窓 戸

加
二字
削
一字

リ。また佐々でちよく遅く
なるよう、佐々に、おれがそ
の旨電着ありとの
連絡なく遅くなつたよう、
これもありません。た
外、——くるま、つなこ
ともありません。た
今回、おれのお長女は遅く
なると言つて、おれ
した。——おれのお長女は
もありません。た
どうしたのか、おれ

二

いふので

長女はこれより特定の男

性も交際して様子

はありません

今回り紀人の廣野芳樹

と一ツ男は名前の顔が知り

ません

われる男から、お方に電話か

きたことあり

昨手暮れが、夜をい

時その男から電話あり

その男は名前が名乗らないで

削一字

削一字

文さん 手紙ですか。

とか。

文さん 手紙願ひ——

なにと云うの

その電話に長女が来た場合

ありまうか。長女が

電話に出るのか嫌だから

と云うので、母さんがお友達

家族の出て長女が

力

手紙

なにと答えて

金 案 子

男性あつちの長女への電話は
その男あつちのあつちのくるたけ
た。

長女は、その男の、とを会社の
人でトラウラ運転手いと言つ

て、その、
とか、特に、あつち

長女は、その男の、とを会社の
人でトラウラ運転手いと言つ

は、なく、電話あつちのくるたけ
を嫌あつちの

た。

昨月のクリスマスのころ

一、かゝる一度は花屋から花を
 女に届けられたいと云ふ
 まゝ
 のかゝる長女に電話する人はいない
 と云ふ。長女はそんなことを言つて
 いふ。
 嫌だから捨てる
 と云ふ。
 捨てる
 今年に入ってから一、二度
 は電話したかも知れぬん
 が、その縁でその男が電話

加
二
字

削
一
字

四

ゆぬくなり
良あ、たし思、
す

と、ろが、今、回、長、女、か、
し、う、男、に、怪、我、を、
い、う、こ、と、に、な、う、
ま、し、の、

長、女、は、今、も、意、識、が、回、復、せ、
ず、足、が、動、け、ず、
も、何、の、反、応、も、あ、り、
医、者、の、診、に、よ、る、と、
う、脳、の、一、番、重、要、な、部、分、と、ろ、が、



どれを損傷——
 かしら、多し、分岐し、ない、
 検査——
 尽くす、と、と、と、
 ひき、る、か、い、う、か、り、見、込、み、な、い、に
 つ、つ、
 い、
 も、た、
 それに、
 し、
 詳——く、調、へ、る、と、い、う、こ、と、
 しか、も、な、い、その、結果、の、詳、し、

金
 茶
 子

加一字
削一字

加一字
削一字

ことになりはすん

犯人の廣野と、男かやた
いとは許すことか、さすん
こんなむいことするの、人お
のする、い、はありな
せん

犯人の名前をかくの嫌で
仕方ありません

長女の、い、今まで、

おは、

い、肝

い、



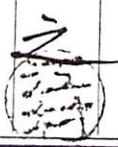
右の通り録取して読み聞かせたところ誤のないことを申し立て署名押印した

前同日

金沢地方検察庁

検察官検事

江村正



なくつ 悔くつ 悔くつ
くつ たまり もん
犯人を 永遠の年まで 処罰し
たくつ 力それより なるこ
と び あり もん
ほう 法律の下で 最
重い 処罰に 下さい

安藤 欣世





檢
察
廳

檢察事務官

久
山
孝
志